

Wedding for this Town

ふたりの結ばれる日が
みんなを結ぶ



背景

多様な主体の存在

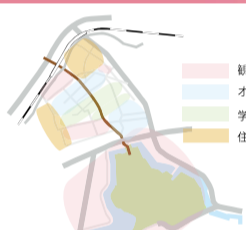
対象地では、東京大神宮、東京国立近代美術館、科学技術館、武道館をはじめとする多数の観光地が点在している。またオフィスや教育施設も多いため、昼夜間人口比率は特別区の中で圧倒的に高い。このように、**交流人口が多く、そのポテンシャルが高い**。しかし、その一方で**人口増加が進んでいる**。その結果、住民・学生・オフィスワーカー・観光客と多様な主体が存在することが対象地の大きな特徴となっており、それぞれの**主体同士の連携**を生み出す事が、対象地のポテンシャルを引き出す上で大切である。特に早稲田通りは、現状でも多様な人が通過する通りである。

孤独な都会人

上記のように多様な主体が存在するものの、住宅地・オフィス・学校等、エリアごとに異なった施設が立地しているため、それぞれの**主体同士の交流は少ない**。また、交通網の発達により、彼らの移動範囲は基本的に目的地と駅との往復に限られており、**回遊性が低い**事が課題である。千代田区は人口・世帯数共に増加が見込まれている一方で、世帯当たり人員数が減少や共同住宅に居住する区民が約85%に及ぶこと、町会構成員の高齢化や加入率の低下など、**地域コミュニティの希薄化**が課題となっている。

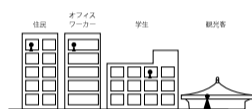
出会いを生みきっかけとしてのハレの日

このように、老若男女、多様な人が数多く集まり、観光資源も抱えるこのまちは、オリンピックの開催地を含むなど、イベントの盛り上がりポテンシャルが高いといえる。地方のまちで地元住民が祭りや季節行事への参加によって繋がりを深めるように、ハレの日は、高揚感のある雰囲気の中で、見知らぬ人との交流が生まれたりといった、街中に繰り出すきっかけとなり得る。この東京の中心で、ビックイベントを介して人々のつながりを強め、よりよいあたたかい都会を形成することができないだろうか。東京都千代田区はこの地で都会の新しいまちづくり、コミュニティ形成を提案する。



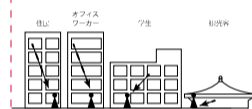
提案の方針

現状 孤独な都会人



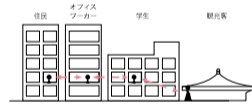
多様な主体同士の出会いがない
地域コミュニティの希薄化

出会いを生みきっかけ「ハレの日」



イベントがある日だけは、
街に繰り出す
顔見知りができる

出会いがより強固な結びつきになる



知り合いが増える
地域コミュニティの強化
多様な主体の連携による
自発的活動の発生

コンセプト ふたりの結ばれる日が みんなを結ぶ

ふたりの結び みんなの出会い

ふたりの結び みんなの出会い まちで挙げる結婚式にはみんなが集まり出会いが生まれる。幸せな二人から出会いが広がる式場になるまち。

みんなの結び つぎの出会い

みんなの結び つぎの出会い 式で出会ったみんなは暮らしの中で結びつきをもつ。繋がった人々はまちへ愛着を持ち、生まれた結びを育てる人へ。

1 スーパーゼンロード (早稲田通り)

結婚式は大切な出会いをくれた富士見のまちで。早稲田通りの真ん中を新しい未来に向かって進む

2 駆けつけ道

街のみんながパーソンロードへ気軽に駆けつける

3 結びの場

多世代が交わる富士見ならではの新しいコミュニティスペースが住民を、訪れた人々の物語を繋ぐ



4 未来を夢見る北の丸公園
自然・最新技術・まちのひと・観光客などさまざまな人や物に囲まれながら2人の未来を夢見る。

5 未来への架け橋
結婚式はクライマックスに。早稲田通りから架け橋を渡り、北の丸公園へ。

6 主役になれるパーソナルモビリティ
大都会東京のど真ん中で行われる結婚式は最新式。参加する知り合いのおばあちゃんも新型モビリティで登場。

ふたりの結び みんなの出会い

中心性のあるメインストリート、人を引き込むドラマチックな動線、東京ならではの最新技術による演出。これらが整備されるとそこは式場になりみんなが集まる。

1 スーパーゼンロード (早稲田通り)

商店街・近隣住民行政が一体となり、早稲田通りを飯田橋-北の丸公園間のメインロードとして整備する。

○通りのファサードの整備

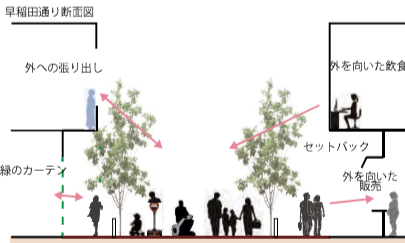
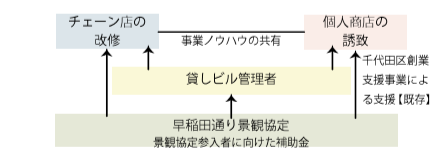
沿道に向けて開いた作りすることで周辺建物との一体感を醸成・現状の圧迫感を軽減する。建替えに際しては右図のような早稲田通りに中心性を持たせるファサードを工夫。

○歩行者の快適な回遊の確保

歩行者とモビリティの共存路として整備。舗装はモビリティの動作を妨げないインターロッキングを用い、早稲田通り全体で統一することで一体感を持たせる。歩道と歩ビリティコースは横断でゆるやかに分節する。

○商店街の育成

貸しビルとチェーン店が多く特徴の無い現状から、早稲田通り商店街を育成する。

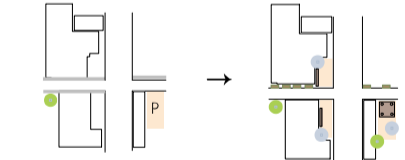


店舗は建替えやテナント入れ替えの際に「早稲田通り景観協定」に基づき通りに開くファサードに。

○早稲田通り景観協定の二本柱
・早稲田通りと周辺建築物の一体感を醸成
・緑化計画の徹底
→敷地面積 250 平方メートル以上の店舗：千代田区緑化推進要項対象。要項に基づき区に計画を提出
→敷地面積 250 平方メートル以下の店舗：早稲田通り景観協定に基づき、商店街組合に計画を提出

2 駆けつけ道

早稲田通りに接続する細街路は住民と協力して整備。車両の制限やポケットパークの整備等を行う



・通りの滞留性の促進
・アダプトプログラムの活用
・車両通行の制限 (一方通行)

3 未来への架け橋

既存の歩道橋を改修し、早稲田通りの終わりから北の丸公園にダイレクトにアクセスできるようにする。色味を早稲田通り、青空広場、とことで、北の丸公園に向けての連続性・高揚感が演出され、人を引き込む。

4 未来を夢見る北の丸公園

既存の自然、歴史に加え最新技術を体感出来る。観光拠点としてだけでなく、公園が少ない対象地では、休日に多世代の人々が訪れる地域の広場としても機能する。

○日本の先端技術が集合体験

【パーソナルモビリティ (PM) の拠点】PMの講習会を科学技術館と各メーカーの協賛で実施。講習を受けた後、園内では走行路を周回して新たな回遊を楽しめる。導入に当たって園内の走行路はフラットでバリアフリーな舗装とし、歩行者との共存を可能にするため最低4mの幅員とする。
【最新技術の展示会】第3駐車場は駐車台数少ない日は、協賛企業による最新技術の展示会・社会実験を行う場所として貸し出す。日本の日々更新される技術が常に集い、年間を通して体験することができる。

○自然体験の広がり

【ポート増設】千鳥ヶ淵に面した2箇所に新規のポートを設置。多機能と合わせ整備することで様々な利用者を見込む。
・遊歩道・資料館裏庭・ポート増設を1動線として一体整備
・見晴らしの良い消防所跡にデッキ・テナント地方販売とポート増設を併設して整備。
【住民・行政・学識が一体になった自然保護】科学技術館を中心として北の丸公園を中心とした自然保護チームを形成。住民ボランティア・周辺大学研究者・行政が連携



技術と自然の共存
・千代田エコシステム【既存】 技術実験・実施規制緩和
・千代田区緑化推進要項【既存】 参加 (行政と企業が「環境技術向上協定」を結び、持続可能な技術・省エネ法【既存】 連携・アクセスメント (街更新を図る)
・エコアクションポイント【既存】 付与 新技術の発展、環境への貢献

みんなの結び つぎの出会い

多世代コミュニティの形成、住民を中心とした新しい交わり、シームレスな移動。集った仲間が結びつき、輪を広げていく。

3 結びの場

○コミュニティ-区民館

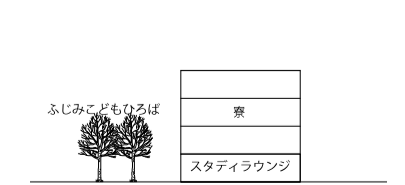
学校、託児所、オフィス、観光スポット等多くの主体が混ざり合う場に位置する区民館は、1階をコミュニティカフェとして、解放する。気軽に居られる場所となり、区民館利用後におしゃべりしたり、学生の自習スペースとなったり、観光客が休憩したり、多様な人々が溜まる。区民館の利用も活性化し、地下一階の葬儀室では、地域の皆に見守られながら、お葬式が行われる。



中学生Aくん「学校帰り友達と宿題しに寄ったら、外国人の人に大神宮の行き方聞かれたんだ」
中学生Bちゃん「最近海外の人も多くなったよね。緊張するけど勉強になったな。地方アンテナショップが週代わりなのも楽しいよね」

○みんなの寮

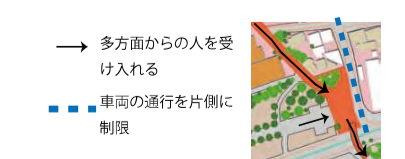
地方からの大学生を受け入れる学生寮を整備する。ふじみこどもひろばには、拠点となる寮を設置する。ふじみこどもひろばでは、寮生がプレーリーダーとなって子供たちの安全を確保する。寮の1階はフリースペースとして開放し、ふじみこどもひろばで子供を遊ばせながら仕事をするお母さんや、付近の高齢者住宅の人、学生等が訪れる。



小学生Cちゃん「がっこうがえりにあそぶばしょができてたの。いそがしいの。なつてくれるちびっこもできて、ながいきしたくなったの。う。う。」
おかあさんDさん「プレーリーダーのお兄さんお姉さんしっかりしてるわよね。うちの子どもあんなに欲しい。」

○あそび広場 (靖国前)

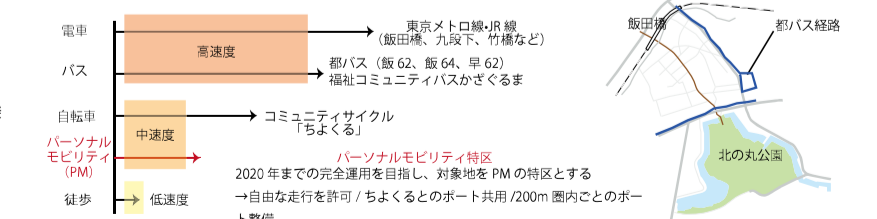
靖国神社前には、周辺の学校や町会のイベントや、靖国神社のフリーマーケット等が街に開いて行えるイベント広場を整備する。靖国神社を訪れる観光客が集う広場ともなり、地域のイベントが観光客の目にとまり、関わりが生まれる。
ex) 餅つき大会、縁日、フリーマーケット、ラジオ体操、避難訓練



地元のおじいさんEさん「靖国神社の前がひらけていきもちいいう。なつてくれるちびっこもできて、ながいきしたくなったの。う。う。」
観光客Fさん「Japanese People are so kind! They taught us their culture dance "radio taisou" in that place!」

6 主役になれるパーソナルモビリティ

現状の交通機能を整理し、新しくパーソナルモビリティ (PM) を導入・連携させることでだれでも移動しやすいシームレスな交通環境を整える



バス運行形態の改善
運行中の福祉コミュニティバス「かざぐるま」の運行ルートを改変し、現行・現改正案よりも範囲を小さくすることで、課題である所要時間の短縮・増便を可能にする。南北に広範囲を行き来する都バスと連携し、バス停位置・時刻表を調整することでより快適な移動を実現する。さらに両バス間の乗り継ぎチケットを用意することで利用者の増加をねらう。

交通機能としてのパーソナルモビリティ
公共交通機関が発達した都会に置いて、交通手段には乗って移動する(派生需要)だけではない乗る事自体が楽しめること(本源需要)が求められている。パーソナルモビリティは本源需要を叶えるとともに、中低速の交通であるため、高齢者・障害者の移動手段に適する、まちのシークエンスが楽しめるといった利点がある。